

悩まなくてもだいじょうぶ



# 知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会  
代表 園部まり子



イラスト/清水直子



第28回

## 東日本大震災から1年

### 必要な情報や

### 研修の機会を提供

昨年3月11日に発生した東日本大

震災から1年がたちました。いまだ

に行方分からない方、避難生活を

余儀なくされている方も多く、災害

は今も続いているという思いを深く

します。被災地の皆様に心からお見

舞いを申し上げます。「母の会」も

この1年間、自分たちがかわれる

分野で役に立っていることはないかと模

索しながら、岩手、宮城、福島3県

をこれまでに10回、30日間にわたっ

て訪問し、活動を続けてきました。

活動は被災地を訪問して必要と分

かった二つの視点で進めてきました。

一つは被災から1カ月たたない避難

所で出会った患者や子どもたちの姿

を通して分かった、「アレルギー患

者（児）は、避難所などで支援を受

けるべき人とされていない」状況を

少しでも変えることでした。

そのために小児アレルギー学会に

お願いして作成していただいた「災

害時のこどものアレルギー疾患対応

パンフレット」(※)を、会として

も独自に5千部印刷し、沿岸21市町

の教育委員会、保育担当、健診担当

部署など60カ所以上に直接届け、活

用をお願いしました。

もう一つは、仮設住宅などで被災

者と向き合う保健師、看護師、栄養

士さんなどにアレルギーの人たちへ

の必要な支援を理解していただき、

長い期間にわたる支援の基盤を作る、

そのための専門医による研修の機会

を提供してきました。この活動は



そのべ・まりこ●神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

「母の会」が普段から行なっている

取り組みでもありますが、被災地で

はこれまでに岩手県宮古市や宮城県

仙台市などで5回の研修を実施し、

多くの医師や看護師、保健師、保育

士、栄養士、養護教諭などの方々

に大変に喜ばれています。

### 旧知の友人のように 迎えてくれる方たち

この間、多くの専門職の方と出会

いました。回を重ねて訪ねるうちに、

見ず知らずだった私たちを、まるで

旧知の友人のように温かく迎えてい

ただくようになりました。被災1年

は復興に向けた一里塚です。「母の

会」は被災地の状況の変化に合わせて

て、必要な取り組みを続けていき

た

と思っています。

※パンフレットは小児アレルギー学会のホームページ(<http://www.iscb.net/JSPACI/>)からダウンロードできます。